

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策1	みんなでつくる健康なまちづくり
取組1	健康づくりの推進
取組の目的	市民自らが健康的な生活習慣を身につけることを支援し、生活習慣病の発症を予防します。

現状と課題	◎生活習慣病を予防し自らの健康づくりに取り組むことが求められる中、運動や栄養指導等に積極的に取り組んできたが、「日常生活における歩数の増加」や「野菜摂取の状況」など、改善の傾向が十分でないものがある。 ◎一人ひとりが、健康づくりを継続して実践できるよう地区担当保健師、栄養士が中心となり、地域の関係者や関係機関等と連携・協働を深めていく必要がある。
--------------	--

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	特定健診で内臓脂肪症候群該当者及び予備群者の割合【%】	目標値	男 25.1 女 11.3	男 25.1 女 11.3	男 25.1 女 11.3	男 25.1 女 11.3	男 25.1 女 11.3	2
		実績値	男 33.3 女 14.3	男 32.5 女 13.6	男 32.5 女 13.1	男 33.3 女 13.0	男 31.4 女 13.4	
2	特定健診で「糖尿病が強く疑われる人」の割合【%】	目標値	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	1
		実績値	10.4	9.9	9.5	9.2	9.7	
3	日常的に運動(身体を動かす)習慣のある人の割合【%】	目標値	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	1
		実績値	29.6	32.5	33.7	31.9	31.2	
4	食生活で心がけていることがある人の割合【%】	目標値	69.3	71.6	73.9	76.2	78.5	1
		実績値	75.9	69.9	70.9	75.4	67.2	
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている							評価結果の平均点	1.3

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	2	◎いずれの指標も目標達成した項目がなく、期待された成果が十分とは言えない。 ◎地域健康寺子屋や出前健康教室(公会堂・公民館・事業所・地域活動サークル)の開催、フッピー健康ポイント事業については、生活習慣病及び介護予防の普及と定着に効果的である。また、参加者の増加に向けた取り組みをさらに工夫していく必要がある。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎生活習慣病の早期発見・早期治療を目的とした各種検診は、市民一人ひとりの健康長寿の実現に向けて引き続き受診率の向上を図る必要がある。 ◎重点取組である「糖尿病予備群ゼロ作戦」については、ヘモグロビンA1cが要指導、要医療の方を対象に、引き続き効果的な個別指導、または電話による指導を実施するとともに、広く市民に予防のための知識を啓発していく必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎特定健診、特定保健指導の対象者に向けた受診推奨や指導など計画的に実施し、医療費の削減につなげる必要がある。 ◎特定保健指導実施率を高めることで、脳梗塞、心筋梗塞、人工透析等の生活習慣病が予防でき、医療費削減と要介護者の減少につながる。
評価結果の平均値	3.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	救護所運営事業	4	4	4
2	保健衛生施設維持管理事業	3	3	4
3	健康運動サポーター事業	3	4	4
4	フッピー健康ポイント事業(健康マイレージ)	3	3	3
5	出前健康教室開催事業	4	3	4
6	地域ヘルスプロモーション事業(地域健康寺子屋事業)	4	4	3
7	子ども健康教育支援事業	4	3	4
8	食育推進事業	4	3	4
9	生活習慣病予防事業	4	3	3
10	禁煙・分煙推進事業	3	3	4
11	自殺予防対策事業	3	3	3
12	各種検診事業	4	3	4
13	がん検診推進事業	4	4	4
14	(新)歯科保健推進事業	3	3	3
15	健康塾開催事業	4	3	3
16	糖尿病予防・撃退推進事業	3	3	3
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.5	3.6	3.3
				3.6

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	担当課の自己評価結果【C】	各評価結果の平均値
1.3	3.0	3.5	2.6

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

◎特定健診で「糖尿病が強く疑われる人の割合」はこの5年間で改善傾向がみられるが、目標達成にはいたっていないことから、個別指導の強化、市民意識の向上に努め、糖尿病の予防と撃退への取組を進めていく。 ◎各事業の課題を検証し、効率的な実施と事業成果をあげることが必要であるため、KPI(重要業務評価指標)の設定と新たな効果的な事業の推進を図る。		H27の評価	一部に改善を要する
番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	日常的な運動習慣の定着	→	出前健康教室の開催や「フッピー健康ポイント事業(健康マイレージ)」の実施などを通して、運動習慣の普及と定着の推進を図る。また、地域の健康運動リーダーの育成も必要である。
2	望ましい食習慣の定着	→	市民一人ひとりが食や運動をはじめとした健康づくりについて考え、実践できる機会を提供していく。特に公民館単位での学習会や出前健康教室等を利用し、推進していく。
3	禁煙の推進	→	禁煙・分煙に向けた施策の推進や企業への支援を行う。また、未成年者の喫煙防止については、小中学校の協力を得て啓発活動を推進し、子どもから家族へと広げることが重要である。
4	早期発見・早期治療体制の強化	→	生活習慣病の早期発見・早期治療を目的とした各種検診については、市民一人ひとりの健康長寿の実現に向けて、引き続き受診率の向上を図ることが必要である。
5	地域で取り組む健康づくりの推進	↗	地域住民主体の健康づくりを推進するため、地域担当保健師・栄養士・健康づくり推進委員・医療機関等と連携、協力して事業展開を図る必要がある。
6	心の健康づくりの推進	→	ゲートキーパーを養成し、心の病の理解や対処方法などについて、多くの市民に正しい知識を普及することで、心の病気を早期に発見し、適切な専門機関につなげていく必要がある。

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策1	みんなでつくる健康なまちづくり
取組2	地域医療の充実
取組の目的	医療からリハビリまで、市民が安心して受診できる医療体制を整備します。

現状と課題	◎中東遠総合医療センターでは、「救命救急センター」の指定や病院機能評価の認定を受けるなど、圏域の基幹病院としての役割を果たすとともに、効率的な運営と健全な経営の推進が求められている。 ◎聖隷袋井市民病院では、急性期病院と連携した医療の提供を行っているが、看護師不足により150床全ての稼働に至っていない。また、一次救急医療は、診療を行う医師会医師数が少ないため浜松医科大学から支援を仰いでいる。
-------	---

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点	
1	市民病院における患者満足度(入院) 【点】	目標値	77.0	80.0	80.0	80.0	80.0	3	
		実績値	—	—	84.9	87.0	83.7		
2	市民病院における患者満足度(外来) 【点】	目標値	65.0	70.0	80.0	80.0	80.0	1	
		実績値	—	—	55.2	61.3	59.3		
3	診療所から市民病院への紹介率【%】	目標値	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	4	
		実績値	65.2	65.9	59.7	65.0	68.1		
4	市民病院から診療所への紹介率【%】	目標値	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0	4	
		実績値	35.4	52.2	44.3	61.5	84.0		
5		目標値							
		実績値							
H23・24は、旧袋井市民病院の数値。						【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている		評価結果の平均点	3.0

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	4	◎中東遠総合医療センターと聖隷袋井市民病院の医療体制の充実を図ることで、医療機関の機能分化・連携強化が図られ、急性期から慢性期まで切れ目のない医療サービスが提供できることから有効である。 ◎総合健康センターを核として、医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護事業者等と連携し、保健、医療、介護、福祉の各分野の充実を図ることにより、多様な相談に的確に対応することが可能となるなど、安心した地域医療体制づくりに有効である。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎限られた医師や看護師等の医療資源の中で、中東遠総合医療センターと、聖隷袋井市民病院、市内開業医が連携を強化し、切れ目のない地域医療体制を確保していくことが必要である。 ◎団塊世代が75歳に到達する2025年を見据え、医療と介護の確保・連携が求められており、総合健康センター事業の充実を図ることにより、地域包括ケアシステムの早期構築に向けた取組が必要である。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎聖隷袋井市民病院の使用許可病床は100床であるが、看護師の確保が図られず、十分に活用されていない状況(稼働病床86床)であるため、早期に看護師を確保する必要がある。 ◎一次救急医療については、平日夜間の在宅輪番制とともに、日曜日・祝日・年末年始における休日急患診療室での診療を行っており、引き続き安定した持続性のある医療体制の維持を推進する必要がある。
評価結果の平均値	3.7	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果			
		有効性	効率性	廃止の影響	
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり	
1	総合健康センター施設管理事業	4	2	4	
2	中東遠看護専門学校組合負担金	4	3	4	
3	袋井市病院事業運営費補助金	4	2	4	
4	中東遠総合医療センター補助金	4	4	4	
5	一次救急医療事業	4	3	4	
6	袋井市立聖隷袋井市民病院運営事業	4	2	4	
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
評価結果の平均値		3.6	4.0	2.7	4.0

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
3.0	3.7	3.6	3.4

4 ～ 3.6 : 順調 3.5 ～ 3 : 概ね順調 2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要する

◎中東遠総合医療センターは、救命救急センターの指定や病院機能評価の認定を受けるなど、圏域の中核病院としての役割が果たされている。 ◎総合健康センター事業を充実させるとともに、在宅医療を支援する地域包括支援センターとの連携強化に向けた取組が必要である。 ◎救急医療の適正受診に関する取組は着実に成果を上げている中で、一次救急医療体制の完全センター方式に向けた検討を進める必要がある。	H27の評価	概ね順調
---	--------	------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	質の高い医療体制の確保	↗	中東遠総合医療センターについては、効率的かつ安定的な経営を目指すとともに、圏域の基幹病院としての機能強化を図る。また、地域医療支援病院の承認に向け支援を行っていく。
2	地域医療体制の強化	↗	中東遠総合医療センターや聖隷袋井市民病院、地元医師会との情報交換を行い、連携を強化し切れ目のない地域医療を確保する。また、袋井市在宅医療多職種連携推進会議を開催し、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築する必要がある。
3	救急医療体制の確保	→	中東遠総合医療センターにおいては、診療科の連携と協力体制を構築し救急機能を高めるとともに、休日急患診療室を核とした一次救急医療体制の充実を図ることにより、安全・安心で持続可能な救急医療体制を確保する必要がある。
4			
5			
6			

<< 展開方向 >> 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策1	みんなでつくる健康なまちづくり
取組3	健康長寿の推進
取組の目的	高齢者が住み慣れた地域社会の中で、健康でいきいきと安心して暮らせる環境を整備します。

現状と課題	◎本市の高齢化率は、22.1%(H28年3月末)と、県平均より低いですが、高齢化は着実に進んでおり、今後、認知症高齢者や要介護認定者数の増加も予想され、実効性のある支援体制を構築していくことが課題である。 ◎要介護認定者数の増加や介護サービスへの需要の拡大による介護給付費の増大などが見込まれ、介護保険料の上昇が懸念される。
--------------	--

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	要介護認定者の割合(65歳以上)【%】	目標値	11.9	11.7	11.5	11.3	11.0	2
		実績値	12.3	12.5	12.4	12.4	12.0	
2	介護予防教室・講座参加者数【人】	目標値	8,490	8,490	8,490	8,490	8,490	3
		実績値	12,012	13,646	13,226	14,039	13,890	
3	介護支援ボランティア登録人数【人】	目標値	250	330	400	400	400	1
		実績値	208	231	235	256	244	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】						評価結果の平均点		2.0
4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている								
3: 目標は達成しているが、前年より落ちている								
2: 目標は達成していないが、前年より伸びている								
1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている								

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎要介護認定者の割合(65歳以上)は、目標達成には至っていないものの、現状を維持しており、介護予防教室等の事業成果が着実に表れていることから有効である。 ◎公民館等を活用した積極的な介護予防事業の取組により、介護予防教室・講座参加者数は、目標値を大幅に達成し、介護予防の普及と多くの高齢者の社会参加の促進に一定の成果をあげている。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎介護保険制度の円滑な運営に努めるとともに、2025年を見据えた介護予防の取組や、真に必要な介護サービスを効果的かつ効率的に行うことが必要である。 ◎今後とも増え続ける高齢者の介護予防を効率的かつ積極的に進めるため、地域支援事業の充実が必要である。 ◎高齢者がができる限り自立した生活が過ごせるよう、高齢者の活躍の場、生きがいがづくりの場を創出することが必要である。また、一人暮らし高齢者や認知症高齢者が住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることのできる社会の実現が求められている。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎高齢化の進行に伴い、医療費や介護給付費の増加が懸念される中、効果的な介護予防事業を推進し、元気な高齢者が暮らすまちづくりに取り組むことは緊急性が高い。 ◎介護予防事業については、公会堂等、高齢者が気軽に通える身近な場所での事業の開催と、市民が主体になった介護予防活動に転換していくことが必要である。
評価結果の平均値	3.7	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	敬老祝い事業	3	3	4
2	長寿祝い事業	3	3	3
3	袋井・森地域シルバー人材センター補助事業	3	3	4
4	老人クラブ補助事業	3	3	4
5	老人福祉センター施設運営事業	3	3	3
6	緊急通報システム機器貸与事業	3	3	4
7	はり・灸・マッサージ施術費助成事業	3	3	4
8	養護老人ホーム施設運営事業	3	3	3
9	老人保護措置事業(市外施設)	3	3	4
10	生活支援体制整備事業	3	3	4
11	介護相談員派遣事業	3	3	3
12	在宅介護支援金支給事業	3	3	2
13	紙おむつ支給事業	3	3	4
14	認知症地域支え合い事業	3	3	3
15	ひとり暮らし高齢者支援事業	3	3	3
16	お元気サポーター養成講座	3	3	3
17	介護支援ボランティア事業	3	2	2
18	介護予防教室事業(はつらつ・かるやか運動教室)	3	3	3
19	介護予防教室事業(楽笑教室)	3	2	3
20	介護予防教室事業(通所型・訪問型)	3	3	4
21	介護予防出前講座	3	3	3
22	認知症予防教室事業	3	3	3
23	認知症総合支援事業	4	3	4
24	配食サービス事業	3	4	4
25	通院介助・外出支援事業	3	4	4
評価結果の平均値		3.1	3.0	3.4

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.0	3.7	3.1	2.9

4 ～ 3.6 : 順調 3.5 ～ 3 : 概ね順調 2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要する

◎ロコモティブシンドロームや認知症の正しい知識等の普及啓発を図るとともに、運動教室や認知症予防教室を開催することで、地域と行政が協働で介護予防に努める必要がある。 ◎認知症ケアハウスの普及、認知症初期集中支援チームによる支援など、医療機関との連携強化体制により、住み慣れた地域で安心して暮らせる「地域包括ケアシステム」の構築を推進する必要がある。		H27の評価	一部に改善を要する
番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	健康教育の推進	↗	高齢者が楽しくいきいきと参加できる「はつらつ運動教室」や「かるやか運動教室」、「楽笑教室」等を開催し、ロコモティブシンドローム予防や認知症予防を推進する。
2	生きがいづくりの支援	→	介護予防教室や、講座、学習活動、就労、ボランティア参加による社会貢献活動等への支援を積極的に行うことにより、高齢者が主体的に活動し、自立した生活が営めることを目指す。
3	地域で支える介護環境の充実	↗	「見守りネットワーク」等による地域の見守り体制の整備や居場所づくりの推進などにより、高齢者がいつまでも住み慣れた地域でいきいきとした暮らしができるよう、支援体制を構築していく必要がある。
4	介護サービスの充実	→	地域の医療機関や介護事業所等と連携し、地域の課題抽出やその対応策等を行うことにより、在宅医療・介護サービスを一体的に提供できる体制を構築する必要がある。
5	高齢者を支える福祉環境の充実	→	高齢者の福祉ニーズを的確にとらえ、少ない負担で質の高いサービスが安定的に提供できるよう民間と行政が連携を深め取り組む必要がある。
6	総合的な社会福祉の推進	→	医療、介護、介護予防、住居、生活支援サービスのすべてを一体として考え、高齢者ニーズに合わせて切れ目のない支援が行えるよう、地域包括ケアシステムの早期構築を実現させる必要がある。

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策1	みんなでつくる健康なまちづくり
取組4	障がい者の自立支援
取組の目的	障がいのある人の自立を支援し、住み慣れた地域でその人らしく生活できる環境を整備します。

現状と課題	◎障がい者の自立を支援し、住み慣れた地域で生活できる環境の整備に努めているが、障がい者が身近で相談できる体制や受け入れるための施設が十分でないことから、計画的な整備を図る必要がある。 ◎障害者雇用の普及促進を図ることにより、年々わずかずつではあるが雇用率が高まっているものの、目標に達していない状況である。
-------	---

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	市内にある障害者自立支援通所施設の定員【人】	目標値	255	265	277	277	277	4
		実績値	270	290	304	352	365	
2	雇用障害者数【人】	目標値	161	172	183	194	207	2
		実績値	140	150	161	157	169	
3	手話通訳や点訳などのボランティア登録者数【人】	目標値	87	92	97	102	107	2
		実績値	97	86	100	106	106	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている							評価結果の平均点	2.7

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎「市内にある障害者自立支援通所施設の定員」は目標を達成している。「雇用障害者数」、「手話通訳や点訳などのボランティア登録者数」は目標は達していないが、前年より伸びている。 ◎障害福祉サービスの実施により、障がい者の地域での自立した生活を促進していることから有効である。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎障害者総合支援法の施行により、福祉施設や精神科病院からの地域への移行が推進されているが、受け入れるための施設の整備等が必要である。 ◎多様なニーズに応じたサービスを展開していくため、地域全体を巻き込んで、十分な連携を図っていくことが必要である。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎障がい者をめぐる環境変化に着実に対応していくため、緊急性は一定程度高まっている。 ◎国が進める地域移行に従い、社会福祉法人やNPO法人と連携を密にし、円滑な事業運営を早急にしていく必要がある。
評価結果の平均値	2.7	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	難病患者等支援事業	4	4	4
2	相談員設置事業(知的・身体共通)	4	3	4
3	社会福祉施設整備・設備整備助成事業	4	3	4
4	(知的・身体)障害者レクリエーション事業	3	3	3
5	在宅者紙おむつ給付事業	3	3	3
6	身体障害者福祉会助成事業	3	3	3
7	緊急通報システム機器貸与事業(身体障害者)	3	3	3
8	心身障害者扶養共済掛金事業	3	3	3
9	重度障害者タクシー料金助成事業	3	3	3
10	ライフサポート事業	4	3	4
11	障害者自立支援給付(障害者福祉サービス)事業	4	3	4
12	障害者(児)補装具給付事業	4	3	4
13	自立支援医療(更正医療)給付事業	4	3	4
14	特別障害者手当等給付事業	4	4	4
15	重症心身障害者児童扶養手当給付事業	3	3	3
16	身体障害者移動等支援事業	3	3	3
17	コミュニケーション支援事業	4	4	4
18	日中一時支援事業	4	4	4
19	外出介護事業	4	4	4
20	日常生活用具給付事業	4	4	4
21	訪問入浴サービス事業	3	3	3
22	地域活動支援センター事業	4	4	4
23	精神障害者入院医療費助成事業	3	3	3
24	障害児放課後児童クラブ運営事業	4	3	4
25	障害者優先調達事業	3	3	3
評価結果の平均値		3.5	3.6	3.3
		3.6	3.3	3.6

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.7	2.7	3.5	3.0

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

◎現在、第2次障害者計画(H24～H29)及び施策の数値目標を示した第4期障害福祉計画(H27～H29)に基づき、障害福祉施策を展開している。 この計画は、障害福祉サービス提供事業者やサービス利用者に調査等を基に策定されたものであり、本市の障害福祉施策の指針となるものであることから、計画に基づく各種取り組みを積極的に推進し、障がい者の自立に向けた施策を推進していく。	H27の評価	概ね順調
--	--------	------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	地域での生活環境の整備	↗	障がい者が住み慣れた地域で暮らしていくために、障害者自立支援通所施設の整備が必要である。市内の社会福祉法人やNPO法人にアンケート調査等を実施して策定した第4期障害福祉計画に基づき、施設整備を図る。
2	在宅福祉サービスの充実	→	ホームヘルプサービスや施設入所支援等、介護を行うためのサービスに対して支給される給付を今後も継続して行う必要がある。
3	就労の支援	→	磐田市と共同で設置している中遠地域自立支援協議会の進路、就労部会を定期的に開催し、両市の障害福祉サービス提供事業者と情報交換を行い、自立に向けた就労支援を推進している。
4	社会参加の環境整備	→	第2次障害者計画においても施策としている手話奉仕員や点訳奉仕員の養成を行うとともに、ボランティアや地域の理解・協力を得ながら、障がい者が住み慣れた地域で自分らしく生活できる環境を整備していく。
5			
6			

≪ 展開方向 ≫
 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策1	みんなでつくる健康なまちづくり
取組5	共生社会の確立
取組の目的	市民一人ひとりの生命や人格が尊重され、誰もが個性と能力を発揮し、安心して暮らせる共生社会を確立します。

現状と課題	◎男女共同参画については、「市政に女性の意見が反映されていると思う人」の割合が低いことや、「自治会長における女性の割合」に伸び悩みがみられるなど、地域におけるより一層の男女共同参画の推進が必要である。 ◎多文化共生については、言語や文化、生活習慣の違いから生じる相互理解の不足等の課題も存在するが、今後は、外国人を含めた全ての市民が、地域で支え合い、持てる能力を発揮できるまちづくりが求められている。
-------	--

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	行政委員会や審議会等における女性委員の割合【%】	目標値	31.0	33.0	35.0	37.5	40.0	2
		実績値	30.4	33.9	32.3	35.4	37.0	
2	市政に女性の意見が反映されていると思う人の割合【%】	目標値	27.0	28.5	30.0	32.5	35.0	2
		実績値	23.6	24.7	24.9	19.7	23.1	
3	外国人の就学率【%】	目標値	47.0	48.0	49.0	49.5	50.0	4
		実績値	52.0	60.8	61.9	70.5	74.0	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】						評価結果の平均点		2.7
4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている								
3: 目標は達成しているが、前年より落ちている								
2: 目標は達成していないが、前年より伸びている								
1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている								

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎男女共同参画推進プランに基づき、男女共同参画社会の実現に向け取り組んでいる。行政委員会や審議会等における女性委員の割合、市政に女性の意見が反映されていると思う人の割合は目標値には届いていないが、市町の審議会委員の女性の割合は県内では高く、一定の成果は現れている。 ◎外国人市民に対し、日本語の習得や行政情報の提供などを行うとともに、日本語教室や日本語支援者養成講座の実施、行政又は生活相談窓口を設置し相談窓口利用者も増えてきており、一定の成果は現れている。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎男女共同参画社会の形成に向け、より効果的な会議等の開催方法を検討するとともに、課題解決に向けた事業の取り組みや市民への効果的な啓発を行うことで一人ひとりの意識の醸成を図ることができることから、その必要性は極めて高まっている。 ◎国の外国人材・労働力の確保への動きもあり、社会の構成員として生活・就労していくことが見込まれることから、本取組は必要である。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎高度経済成長期を経て、少子高齢人口減少社会に突入した日本社会にとって、多様性を重視する価値観への転換が必要であることを認識し、地域、家庭、就労、教育の場それぞれにおいて、男女共同参画社会の形成と女性の活躍、外国人市民との共生をより一層推進する必要がある。
評価結果の平均値	3.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	遺族会運営事業	3	3	3
2	戦没戦災死者追悼・平和祈願式	4	3	3
3	社会福祉協議会関連事業	3	3	3
4	民生委員児童委員協議会運営事業	4	4	4
5	生活保護事業	4	4	4
6	人権同和問題啓発運営事業	3	3	4
7	人権問題啓発維持管理事業	2	2	3
8	岡崎会館運営事業	3	3	3
9	岡崎会館施設維持管理事業	3	3	3
10	家庭児童相談室運営事業	4	3	4
11	男女共同参画プラン推進事業	3	3	4
12	多文化共生推進事業	3	3	3
13	国際交流協会補助事業	3	3	3
14	市営住宅施設整備事業	3	3	3
15	虐待予防事業	3	3	3
16	生活困窮者自立支援事業	3	3	3
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.2	3.2	3.1
				3.3

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.7	3.0	3.2	3.0

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

◎男女共同参画については、①男性にとつての男女共同参画の理解の促進、②ワーク・ライフ・バランスの確立に向けた環境の整備、③地域における男女共同参画の推進、④女性に対するあらゆる暴力の根絶の4つを重点項目として取り組んでいく。 ◎多文化共生については、国際交流協会や市民活動団体と連携し、外国人生活情報窓口を充実させる。	H27 の 評 価	概ね順調
--	--------------------	------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	人権意識の高揚	→	袋井市人権啓発推進計画(計画期間:平成27年度～平成32年度)に基づき、人権問題の解決に向けた施策の推進を行い、平成32年度に次期推進計画の見直しを行う。
2	男女共同参画社会の実現	→	第3次男女共同参画推進プラン(計画期間:平成28年度～平成32年度)に基づき、市民や事業者に対し、継続的に意識啓発等の事業を重ねていくことが必要である。
3	外国人と共に暮らす環境の整備	↑	多文化共生をより推進するため、各地区で実施している日本語教室開催事業などの業務委託の拡充や国際交流協会などと連携した事業を行う。
4	虐待の防止	↗	核家族化や家庭内のコミュニケーション不足により、子育てに不安を持つ親を対象とした「ベビープログラム」を、市内すべての子育て支援センターで計画的に開催するなど相談体制の充実を図る。
5	低所得者の生活支援	→	経済的に困窮している人の自立促進を図り、生活保護に至らないよう支援を行うとともに、生活の維持ができない世帯に対しては、生活保護制度に基づき最低限度の生活できる体制を整え、自立に向けた指導指示を行う。
6	ユニバーサルデザインの普及	→	誰もが安心して利用できるユニバーサルデザインに配慮した公共施設改修を行い、社会福祉の推進を図っていく。

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策1	みんなでつくる健康なまちづくり
取組6	市民スポーツの充実
取組の目的	市民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、生涯スポーツの普及と市民や地域の主体的なスポーツ活動を推進します。

現状と課題	◎市民の健康に対する意識の高まりとともに、スポーツに取り組む市民が増え、新しいスポーツ分野のニーズも増加している。スポーツを市民の生涯を通じて欠くことのできない文化の一つとして、日常生活の中に定着させることで、自らがスポーツに親しむことができる地域社会を形成するとともに、市民のだれもがスポーツで人生を豊かに過ごせる環境づくりが求められている。
-------	--

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	定期的(週1回以上)にスポーツを行っている人の割合【%】	目標値	46.0	49.0	51.0	53.0	55.0	1
		実績値	42.4	41.9	41.3	41.9	40.5	
2	市内の運動施設の利用者数(エコパは除く)【人】	目標値	655,000	659,000	664,000	670,000	675,000	1
		実績値	692,555	719,882	690,907	662,972	643,403	
3	全国スポーツ大会の出場者数(激励金交付件数)【件】	目標値	72	77	82	86	90	2
		実績値	84	85	59	61	61	
4	ウォーキングイベントの参加者数(市内在住者のみ)【人】	目標値	4,700	4,775	4,850	4,925	5,000	1
		実績値	4,158	3,589	3,222	3,158	2,384	
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】						評価結果の平均点		1.3
4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている								
3: 目標は達成しているが、前年より落ちている								
2: 目標は達成していないが、前年より伸びている								
1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている								

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	2	◎市内の公共施設利用者数は、全体的に減少傾向であるが、浅羽体育センターや浅羽球技場は増加している。特に、風見の丘の利用者は、13万人余で年々増加している。月見の里水玉プール改修工事による影響が利用者減少の要因の一つと考えられる。 ◎ウォーキングキャラバンの参加者数は、悪天候やポイントカードによる景品をなくしたことなどにより減少したと考えられる。また、ウォーキングイベントは、開催期間を2日間から1日にしたこと参加人数は減少しているが、参加者の集約化、内容の充実化が図られている。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎ラグビーワールドカップ2019静岡県開催や、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定により、スポーツに対する機運の高まりから、「観るスポーツ」から「するスポーツ」さらには、「支えるスポーツ」へと広げ、スポーツを自ら行うことのほかに、スポーツを観て楽しむ、運営スタッフや指導者としてスポーツを支えることなど、市民のスポーツへの関わりを広げていく必要がある。 ◎本市の運動施設は老朽化が進んでいることから、新総合体育館の整備を進めるとともに、既存施設の改修を計画的に行っていく必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎ラグビーワールドカップ2019の開催までに、ラグビーの魅力をも市民に伝え、楽しむ機会を創出するなど、ラグビーの普及を図るとともに、市民の英語力の向上や袋井版ホームステイなどの取り組みにより、本市の国際化の推進を図る必要がある。
評価結果の平均値	2.3	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	風見の丘施設管理運営事業	4	3	4
2	スポーツ推進委員活動事業	3	3	4
3	各種スポーツ教室・大会開催事業	3	2	3
4	全国ジュニアエアロビック大会開催事業	3	3	4
5	エアロビック普及事業	3	3	3
6	総合型地域スポーツクラブ支援事業	3	3	3
7	静岡県市町対抗駅伝競走大会委託事業	4	4	4
8	スポーツ選手激励・指導者養成事業	3	3	3
9	エコパ活用補助事業	3	3	3
10	袋井市スポーツ協会運営補助事業	3	3	4
11	ウォーキング普及事業	3	3	3
12	東海道五十三次 どまん中ふくろいウォーク開催事業	3	3	3
13	スポーツドリーム推進事業	4	3	3
14	学校運動施設運営事業	4	3	4
15	市内公共運動施設運営事業	4	3	4
16	総合体育館整備事業	4	3	4
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.3	3.4	3.0
				3.5

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
1.3	2.3	3.3	2.3

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

◎ラグビーワールドカップ2019の開催までに、ラグビーの魅力を市民に伝え、楽しむ機会を創出することにより、ラグビーの普及を図る。 ◎各種市民大会の開催などスポーツを通じた市民交流の活性化を図る機能をもつ新総合体育館の整備を進めるとともに、市内運動施設の維持・修繕を計画的に進める。		H27の評価	一部に改善を要する
番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	生涯スポーツの推進	→	各種スポーツやニュースポーツ等、市内体育施設や公民館施設における体験教室の開催をはじめ、幼稚園、小・中学校の授業など、いつでも、だれでも楽しめる生涯スポーツの普及を推進していく。
2	競技スポーツの推進	→	市スポーツ協会や競技団体と連携し、各種大会で活躍できるトップアスリートの育成を支援する。また、国内外で優秀な成績を収めた選手や団体を支援することで、競技力の向上を図る。
3	市民や地域のスポーツ活動の支援	→	各種スポーツ教室や総合型地域スポーツクラブの支援等、日頃から気軽にスポーツに取り組んでもらえる環境づくりに努め、地域コミュニティのさらなる推進に取り組む。
4	公共スポーツ施設の充実	↗	市民の生涯にわたるスポーツ活動や健康づくりを実現するため、各種大会の開催など、スポーツを通じた交流の活性化を図る機能や防災機能を持つ総合体育館を整備する。
5	特色あるスポーツ活動の推進	↗	ラグビーワールドカップ2019の開催に向け、「ふくろい遠州の花火」等、イベントで大会のPRを行う他、スポーツクリニック「ラグビー教室」をエコパと連携して開催し、ラグビーの普及を図る。
6			

<< 展開方向 >> 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘